
東北大学陸上競技部

O B ・ O G 通信

2021年No.3 (2021.9)

- ・ 第 72 回全国七大学対校陸上競技大会兼第 32 回全国七大学対校女子陸上競技大会
(たけびしスタジアム京都)
 - …対校男子総合 3 位、対校女子総合 2 位
 - …齊藤宥(2)が男子 400m で優勝
 - …菅田 (1)が女子 400m で優勝
 - …小川 (4)が女子 800m で優勝
 - …上村(4)新山(1)西尾(1)斎藤晃(2)が男子 4×100m R で優勝
 - …畠山 (3)が女子砲丸投で優勝
 - …斎藤晃(2)が男子 110mH で 14.77(-0.1)の部記録
 - ・ 仙台大学競技会(仙台大学陸上競技場)
 - …加地(M1)が男子 400mH で 51.98 の部記録
 - …佐貫(M2)が女子 100m で 12.02(+0.1)の部記録
-

- ・ 第 72 回全国七大学対校陸上競技大会兼第 32 回全国七大学対校女子陸上競技大会
2～13 ページ
- ・ 自己ベスト更新者
14 ページ
- ・ OBOG 戦のお知らせ
15 ページ
- ・ 今後の予定
15 ページ
- ・ 編集後記
15 ページ

残暑厳しき折、会員の皆様にはますますのご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、7月31日に行われました第72回全国七大学対校陸上競技大会兼第32回全国七大学対校女子陸上競技大会の結果をお伝え致します。

◎第72回全国七大学対校陸上競技大会兼第32回全国七大学対校女子陸上競技大会

(7/31)～たけびしスタジアム京都～

1日間、強い日差しが照り付ける厳しい暑さと猛烈な雨の中で行われました。昨年度は中止になってしまった今大会、1年ぶりの開催になりました。コロナウイルスの影響で東京大学、大阪大学の2大学が不参加となり、異例の事態でした。

・男子総合結果

順位	大学	得点
1位	京都大	130点
2位	名古屋大	129点
3位	東北大	75点 (T:54(3)F:21(3))
4位	九州大	43点
5位	北海道大	41点

・女子総合結果

順位	大学	得点
1位	名古屋大	25点
2位	東北大	23.5点 (T:14(2)F:9.5(3))
3位	京都大	20.5点
4位	九州大	9点
5位	北海道大	8点

●主将、女子主将より

～主将挨拶～

東北大学陸上競技部 前主将 諸田直樹

今年の七大戦はコロナ禍による代替試合ということで、五大学での開催となりました。結果としては男子総合三位。当初掲げていた総合優勝には大きく及ばない結果となってしまいました。ですが、私はこの結果は悔しいものではあれども、決して悲観すべきことではないと思っております。

私が主将に就任してからの一年間で合同練習ができた期間は累計たったの五カ月ほどです。これは他の旧帝大と比較しても極端に少ないものでした。そのような中でも、オンラインでの練習会や河原での走り込みなど、工夫を凝らしながら練習に励んでまいりました。そして、厳しい状況であったにもかかわらず、男子4×100mリレー優勝にはじまり、多数の入賞者を輩出することができております。ましてや本大会の正選手の構成を見てみると、多くが三年生以下で構成されており、来年再来年に向けてまだまだ伸びしろのある選手ばかりです。

確かに、本大会では他大学に大きな点差をつけられ、悔しさの残る結果となってしまいました。ですが、いつまでも悔しさに溺れている暇はありません。来年の七大戦はホームである仙台開催です。私は次期主将の佐藤ならば必ずや来年、正式な七大戦で、そして仙台の地で悲願の総合優勝を成し遂げてくれると信じています。

最後になりますが、コロナ禍という逆境の中でこれまで以上に多大なご支援・ご声援を賜りましたOBOGの皆様にご心より感謝申し上げます。今後とも変わらぬご声援をいただければ幸いです。

～女子主将挨拶～

東北大学陸上競技部 前女子主将 小川明音

今年度の7大戦は、女子は名古屋大学に1.5点差をつけられ2位に終わりました。事前予想でランキングのトップであった大阪大学の欠場により、優勝を狙いやすい位置にあったものの、リレーの大会記録など圧倒的な実力を見せた名古屋大学には勝てませんでした。

3連覇中の東北大女子チームに、多くの方が優勝を期待してくださっていた中、それには応えられない結果となってしまいました。しかしながら、昨年までは優勝は厳しいと思われていた我々女子チームが、今年度着実に力をつけ、事前予想を7.5点も上回る大健闘をしたことは、胸を張ってもいい結果だと考えます。

コロナ禍での開催となった7大戦は、多くの協力があって成り立ったものでした。出場辞退を免れない大学があった中、すべての条件が揃い出場することができたことに、心から感謝します。また、OBOGの皆様をはじめ多くの応援、サポートが大変力になりました。本当にありがとうございます。

有力な新生の入部や上級生の成長により、私たちはもっと上を目指せるチームになりました。来年こそは優勝杯を取り戻せるよう、新女子主将のもとで、強いチームを築いていきます。

●七大会各競技を振り返って

☆トラック

男子 100m 予選

1組 2着 上村 尠之(4)11.20(-0.3)

スタートの反応は良かったものの、加速区間でうまく加速できず、トップスピードが小さいまま中間疾走区間へ。中間疾走ではスピードをうまく維持して40m付近で内側を一人抜き2着でフィニッシュ。

2組 3着 笹山 一星(2)11.16(-1.6)

スタートで先行するも、中盤から力みが出て80m付近で足を痛め大きく減速。3着でフィニッシュ。

3組 1着 新山大翔(1)10.99(-1.4)

無心で疾走し、無風換算10"88のタイムでフィニッシュ。接地の感覚は取り戻してきたものの、切り替えのタイミングが合わず後半まで思うように走れなかった。

男子 100m 決勝

2位 新山大翔(1)10.90(-0.3)

自分のレーンに集中し切れず、切り替えのタイミングも合わなかったため、フラット接地から体幹を通して、地面からの反発を上手くもら

うことができなかった。

5位 上村 尠之(4)11.09(-0.3)

スタートもよく、加速も予選に比べると改善されたが、他競技者と20~40m付近で離されてしまい、中間疾走でスピードを維持するも、差は縮まらず、5着でフィニッシュ。自身が持つ11.09の自己ベストと同タイムであった。

8位 笹山 一星(2)16.32(-0.3)

予選で足を痛め、決勝には出場するも全力で走ることができず最下位でフィニッシュ。

女子 100m 予選

1組 3着 山崎 萌々子(3)13.08(+1.2)

スタートで出遅れる。そこから前の選手を追って3着でフィニッシュ。

2組 4着 須藤 桃由(1)13.41(-0.7)

スタートは良かったが、後半スピードに乗れず4着でゴール。

女子 100m 決勝

6位 山崎 萌々子(3)13.30(-2.2)

9レーンからスタート。中盤から周りに離され6着でフィニッシュ。

7位 須藤 桃由(1)13.41(-2.2)

予選での反省点を修正した走りができ、PB

を更新した。

男子 200m 予選

1組 2着 上村 尠之(4)21.91(+0.0)

力感なくスムーズに加速し、50m 通過時点で外側二名を追い抜き、カーブを抜けると同時に内側の選手に抜かれ、後半直線はスピードをうまく維持できたものの差は縮まらず2着でフィニッシュ。自身が持つ 22.21 のタイムを大幅に更新する 21.91 の自己ベストであった。これは部歴代 6 位のタイムとなる。

2組 3着 平井 嘉人(3)22.57(+3.5)

スタート。前半100mで隠しきれない力み、後半100mでピッチが激落ちし終了。

3組 1着 西尾 陸大(1)21.91(+4.8)

レース直前に猛暑から一転して荒天に見舞われた。参考記録でも 21 秒を出したかったのが全力で疾走。

男子 200m 決勝

3位 西尾 陸大(1)22.33(+0.7)

スタートの 1 歩目が浮いたことと疲労により前半 100m加速にいまいち乗れず。後半 100m、上村さんとの勝負なり、走りは崩れたものの僅差で勝利。

5位 上村 尠之(4)22.34(+0.7)

カーブ前半ではしっかりとスピードを高めることができたが、残りのカーブ区間では脚がもたつきうまくスピードを載せられないまま直線に突入。スピードを維持しつつも、他選手に追いつかれ、3位 4位とのタイム差が 0.01 以内の僅差でフィニッシュ。

7位 平井 嘉人(3)22.81(+0.7)

スタート。足が遅く、前半100mで置いて行かれ、コーナーを抜けたところでギアを上げるものの追い打ちをかけるように後半100mで完全に置いて行かれて終了。

男子 400m 予選

1組 1着 片桐 大智(4)49.81

前半からスムーズに加速し、ラスト 30m 程度は余力を残して 1 着でゴール。

2組 2着 齊藤 宥哉(2)50.53

アップ不足と暑さが相俟って前半の 200 から足が動かず2着。あと 0.02 秒遅ければ予選落ちだった。

3組 1着 佐藤 千仁(3)49.98

スタートから 80m は勢いよく飛び出すも、バックストレート~第 4 コーナーでスピードがのらずラスト 100m で再加速した。僅差で 1 着。

男子 400m 決勝

1位 齊藤 宥哉(2)49.35

前半 200 を 24'30 に押さえて走った。ラスト直線でまだ余力があり4人抜いて UB で1着。

4位 片桐 大智(4)49.82

予選と同様に前半からスムーズに加速したが 200m 通過後ペースを乱し複数人の選手に抜かれ 4 位でゴール。

5位 佐藤 千仁(3)49.94

スタートからリズムが悪く、かみ合わない走りとなった。300m 時点で 37 秒後半かかってしまい、持ち味のスピードを出すことができなかった。最後まで巻き返すことができず、5 着でゴール。

女子 400m 決勝

1位 菅田 理乃(1)57.94

6 レーンでスタート。トップスピードに達するまでに時間がかかってしまったもののラスト 100mでさらに差を広げ 1 着でゴール。

3位 山崎 萌々子(3)1:00.88

9 レーンからスタート。滑らかに 200m 地点を通過し、ホームストレートも順位をキープしたまま 3 着でフィニッシュ。

男子 800m 予選

1組 5着 富田 綾人(2)2:05.04

前半から後方にいた。ラスト 300m で周りが上がったのについていけず離されてしまった。

2組 1着 大塚 光陽(1)1:57.63

4 レーンからスタートし、ブレイク直後から 2 番手に着く。650m 付近で先頭の名大の選手を抜かし、先頭に出てそのまま 1 着でゴール。

3組 3着 千葉 琢巳(3)1:57.78

ブレイクしてから一周目を先頭で引っ張る。

残り 200m で抜かれるもラスト 100m は粘って 3 着でフィニッシュ。

男子 800m 決勝

5 位大塚光陽(1)1:57.46

スタートしてすぐ 4 番手に着く。450m 付近で九大の選手に抜かれそのまま 5 位でゴール。

7 位千葉巧(3)1:57.68

2 レーンからのスタート。序盤から後方でレースを進める。終盤まで位置取りは変わらずに経過。ラストは大きく切り替えることができずそのまま 7 位でフィニッシュ。

女子 800m 決勝

1 位小川明音(4)2:14.48

100m 付近で先頭に立つと、そのまま後方を寄せ付けず、2位と約 4 秒の差をつけ 1 着でゴール。

6 位木村瑞葉(1)2:50.31

スタートは良かったがだんだんとスピードが落ちてしまった。2 周目はほとんど力が残っておらず 6 位でゴールした。

男子 1500m 決勝

12 位相澤啓太(2)4:18.10

200m を過ぎてスローペースになったとわかった時に 300m から先頭に出た。1 周目は 72 秒。2 周目以降は 67 秒前後で刻んだが、ペースを上げた先頭集団に食らいつくことができず、また最後のスパートもキレが悪く 12 位でフィニッシュ。

13 位金田大輝(4)4:18.50

スタート直後は前方につけたが 300m 手前でペース変動。内側にいたため対応出来ず最後方まで順位を落とす。400m 通過後位置を前に上げ、700m 地点では先頭集団に着くも、ラスト一周のペースアップに対応できず順位を大きく落とし 13 着でゴール。

14 位菅野耀広(4)4:32.00

1 周目の 200m あたりを過ぎるまで誰も前に出ず、スローなスタートだった。そこから相澤が前に出てペースが上がり 400m の通過が 72 秒程度。500~600m あたりで集団についていけ

なくなり、後は 1 人で走って 14 位だった。

女子 3000m 決勝

6 位阿部柚佳(3)11:38.41

最初の 1km 程度までは先頭集団につけレースを進めた。中盤になると集団から離れ、後続に追いつかれ始めた。残り 1km は単独走になり、苦しい走りが続いた。ラストもあまり上がらずにゴール。

9 位小山麻妃(2)12:09.33

スタート後は、後ろの集団に着く。800m 過ぎて離されるも、2000 手前で前の人に追いつく。最後の 1 周で 1 人を抜き、8 位でゴール。

男子 5000m 決勝

7 位牧野雅紘(4)15:53.97

1000m 付近で 3'00/km ペースで走る第 1 集団と 3'10/km 前後で走る第 2 集団に分かれる。第 2 集団で第 1 集団からこぼれてきた選手を拾っていく。最後の 1000m でスパートをかけ第 2 集団から抜け出したものの入賞はかなわず 7 位でゴール。

9 位安本尚生(1)15:57.55

13 位槇木直人(1)16:45.69

スタートから第 2 集団後方についたが 2000m を過ぎて集団から離れてしまった。PB からは大幅に遅れ、苦しい走りになった。

男子 110mH 予選

1 組 1 着斎藤晃汰(2)14.74(+2.1)

4 台目まで競るも、その後は抜け出し余裕を持ってフィニッシュ。

2 組 3 着岡田幹太(2)15.42(+1.3)

腰が落ちないようにすることだけを意識。両隣の選手に先行されるも、落ち着いて自分のリズムで走り、3 着でゴール。

3 組 2 着根本大輝(2)15.32(+1.7)

2 着雨と落雷により一時中断した後のレースだったが、追い風が吹く好条件での予選だった。スタート後 1 台目から接触し加速しきれず 2 着、自己ベストの記録でゴール。着順で決勝進出。

男子 110mH 決勝

2位 齋藤晃汰(2)14.77(-0.1)[部記録]

1 台目以外全てリード脚でぶつけてしまい減速。隣のレーンの方に競り勝つも、離れたレーンの方に先行され敗北。

5位 根本大輝(2)15.39(-0.1)

槍投げの決勝投擲直後のレースだった。予選同様、スタート後 1 台目から接触するも中盤は安定したハードリング 5 位につける。9、10 台目のハードルで体制を崩し、伸びを欠いてそのまま 5 位でゴール。

6位 岡田幹太(2)15.69(-0.1)

4 本目のレースで、疲労もあり、正直あまり覚えていない。なんとか気力で走り 6 位でゴール。

女子 100mH 決勝

2位 山崎萌々子(3)15.35(+1.1)

3 着の選手に中盤並ばれるものの 6 台目あたりで抜け出し 2 着でフィニッシュ。

男子 400mH 予選

1組 1 着 二ノ神遼(4)56.73

前半からリラックスした走り外レーンの選手と 8 台目まで並ぶ形、そこから少し後続を離し、10 台目以降は後ろを見ながら流してフィニッシュ。1 着で決勝に進出。

2組 3 着 岡田幹太(2)55.98

スタートからゆったりリラックス。8 台目まで 15 歩で良いリズムで走る。タイムで拾われることを確信し、ホームストレートでは、無理に力を使わずに 3 着でゴール。

男子 400mH 決勝

3位 二ノ神遼(4)54.27

予選よりギアを上げて走るも、ハードリングが浮き気味で内レーンの 2 人に徐々に詰められる、7 台目時点では 4 位通過。そこから歩数を切り替えて 1 人かわし、10 台目以降も前を追うが届かず。3 位でフィニッシュ。

5位 岡田幹太(2)55.97

前半は、リラックスしながらも予選より早いタイムで走る。5、6 台目で大きく浮き、無駄な力を使ってしまった。ラスト 40m、4 位の選手を必

死に追うも、ギリギリ届かず 5 位でゴール。

男子 3000mSC 決勝

11位 井上大輝(3)10:07.67

序盤から集団について行けず、終始後方で単独走になり 11 着でゴールした。

13位 稲川亮太(2)10:28.84

第二集団につき 1000m を 3'10 で通過。しかしその後ついていけず集団からずると落ちる。後半は単独走になりそのまま 13 位でゴール。

14位 鳥山拓実(1)10:48.85

1000m まではある程度余裕をもって集団についていくことができた。1500 m 付近まで名古屋大の選手と走っていたが、次第に離されていき、そこから最後まで単独走になってしまった。

男子 5000mW 決勝

4位 辻本隆文(3)23:52.36

最初の 1 周はペースが遅かったため、集団でのスタート。2 周目に入ったところで 3 人が集団から抜け出す、そのペースについていくことができずに 5~6 位でしばらくレースを進めた。2000m 手前で 4 位の選手に追いつき、ラスト 4 周あたりで 4 位争いをしてきた選手を引き離しそのまま 4 着でゴール。

男子 4×100m 決勝

1位 41.26

上村(4)—新山(1)—西尾(1)—齋藤晃汰(2)

第一走者上村。スタートから内側他大学と差を広げ、外側名古屋大との一騎打ちに。そのまま差を広げることなく、名古屋大とほぼ同時に詰まり気味のバトンパス。

第二走者は新山。詰まり気味のバトンパスにも関わらず、スムーズな加速で外側名古屋大学との差を縮め綺麗なバトンパス。この地点でトップ。

第三走者西尾。名古屋大とバトンパスで横に並び、内側からプレッシャーをかけつつ、順位を維持して最終走者齋藤にバトンパス。

第四走者は齋藤。名古屋大の格上選手に

差を縮められるも自分の走りを全うし、トップのままフィニッシュ。

この 41.26 のタイムは部歴代 4 位となる。

女子 4×100m 決勝

2 位 50.83

須藤(1)―伊藤(2)―原田(1)―山崎(3)

4 レーンからスタート。

1 走須藤は内レーンの北海道大、九州大との差を広げて、全体 3 番手でバトンパス。

2 走伊藤は名古屋大の選手にやや引き離されるも懸命の走りをし、全体 3 番手でバトンパス。

3 走原田は安定の走りで、京都大との差を縮め、全体の 3 番手でバトンをつなぐ。

4 走山崎は大きなストライドで加速に乗り、京都大を抜いて 2 位でゴール。

男子 4×400m 決勝

2 位 3:21.11

斉藤宥哉(2)―二ノ神(4)―吉田(3)―片桐(4)

1 走は斉藤。前半に九州大学の選手に並ばれたが後半もピッチが落ちず安定した走りをみせて 2 番手でバトンパス。

2 走は二ノ神。後続に複数人の選手に付けられ難しい展開となったが、ペースを乱さずラスト 100m で 1 人抜かして 1 番手でバトンパス。

3 走は吉田陸。前半 200m は安定した走りで 1 番手を守り抜いた。後半 200m で複数の選手に抜かれたが粘りの走りをみせ 4 番手でバトンパス。

4 走は片桐。前半で 3 番手を追い抜きその後 2 番手についていく。ラスト 100m でスパートをかけ 1 人抜かして 2 位でゴール。

☆フィールド

男子走高跳 決勝

3 位嶋崎雄飛(2)1m95

1m85: 緊張で 1 回目は上手く踏み切れず失敗。二本目は余裕でクリア。

1m90: 1 回目でギリギリでクリア。スピードに上

手く乗れなかった。

1m95: 1 回目で触れずにクリアしたが、踏切位置が近い。

2m00: 1 回目はトラックの 5000m に気をとられ、自分のタイミングでスタートできなかった。2、3 回目は助走のスピードが上がったためさらに踏切位置が近くなり、身体が上昇中にバーに触れた。特に 3 回目はかなり浮いたのもったいなかった。

まず、今シーズン試合の中で 1 回目の跳躍を毎回失敗しているのでもそこを直したい。また、2m 以上跳ぶには踏切位置を今よりも遠くしなければならぬと感じた。

5 位平山朝陽(1)1m85

6 位根本大輝(2)1m85

175cm から試技を開始。175cm、180cm 共に冷静さを欠いた跳躍で 175cm では 2 回目に、180cm では 3 回目に成功する。自己ベストの 185cm は 1 回で成功させ、190cm では 3 回目にクリアランスで足をバーに引っ掛け 185cm で 6 位。

女子走高跳 決勝

4 位原田萌々子(1)1m45

雨の影響で開始が遅れた。だが助走は合っており、しっかりと走れたと思う。1m40、1m45 は余裕を持って 1 回でクリアできた。1m50 の 1 本目で助走が詰まっているように感じたので助走を 1 足長下げた。また、踏切からブロックへの流れを意識して跳んだ。2 本目で跳躍は良くなったが少しかすって落とす。3 本目は 2 本目よりも高さが出ず落とす。

助走の感覚は良かったのに練習で跳べた高さが本番で跳べなかったことは大きな反省点である。3 本以内に修正しきるために自分の跳躍を客観的に分析する力をつけていきたい。

6 位菅田理乃(1)1m45

1m40 から始めた。試合中、400m のレース後の疲労はあまり感じなかったが脚が上がってなかった。結果は出せなかったが多くのことを学んだ。

男子棒高跳 決勝

3位佐々木玲(4)4m10

公式練習で足が攣りまともに走れない中で3m80からスタートした。3m80、4m00と一本目でなんとかクリアできたが足への不安からスピードをあげることができなかった。

4m10になると硬いポールを使えてない分反発が貰えないことが原因で3本目でギリギリバーをかわずようにしてクリアした形になった。この時点でポールアップの選択ができればよかったが足への不安がよぎりグリップをあげるにより4m20のクリアを狙った。しかし3本とも立ちでクリアとはならなかった。

4位佐藤陸斗(2)3m80

前回の跳躍練習から間が空いたことと思うような公式練習にできなかった。また、初めての白いボックスに視覚的に慣れず、助走突っ込みのバランスが乱れた。

3m80。半端な助走と突っ込みの失敗でかなり崩れた跳躍だった。助走～クリアランスまで反省が尽きないほどの跳躍だったが、そんな失敗跳躍でも30センチほどの余裕を持ってクリアできた。

4m××× ここ一ヶ月で最低の跳躍を3本、しかも1番跳ぶべき舞台でしてしまった。助走はまずまずだったが、突っ込みはかえって悪化した。結果ポールが立たず3本ともにほぼ同じ形で落とした。恥ずかしい試合だった。

自分の修正能力の低さ、本番での弱さ、跳躍の不安定感、根本的な競技力不足などあらゆる無力感を痛感した。結果論ではあるが、自身のパフォーマンスを120%発揮していれば十分に優勝も狙えたし、たとえ80%の力しか出なくてもPBは確実の試合だった。今回この大きな舞台で20%程度の跳躍しかできなかったことも自分の実力と受け止め、早く納得できる跳躍ができるよう鋭意努力する。

5位黒石公祐(1)3m60

初戦だったので、まずはけがをせず、記録を残すことを目標に考えていた。そのため緊張

なく競技できたので良かった。

公式練習での跳躍が最もよく、3m80も狙えると思ったが、本番ではそこまでいい跳躍ができなかった。その原因としては、練習で使用していたポールが14ft140lbsだったのに対し、試合では14ft150lbsを使用した。ポールの硬さが2段階上がっているため上手く使うことができなかった、ということが考えられる。試合では、練習よりも上のポールを使うことを考慮し、普段から、ポールアップに対応できるように意識した練習を積んでいく必要がある。

また、普段の練習ではなかなかボックスに突っ込むことができないが、試合本番では足合わせがスムーズに行えたことから、必要に迫られたら恐怖心を忘れて突っ込めることを学んだ。普段の練習で跳躍の本数を増やすために、精神面を強化しなければならないと感じた。

男子走幅跳 決勝

7位細島慎友(3)6m63(+1.4)

1本目、2本目

足が全く合わずひどい助走で跳べなかった。

3本目 6m39cm(+1.2)

跳ぶことはできたが、無理やり合わせて減速しながら跳んだため距離は出なかった。

4本目 6m63cm(+1.4)

5本目 6m37cm(+1.8)

2本とも足が合わず、途中で歩幅が短くなってしまい思い通りの跳躍ができなかった。

6本目 6m42cm(-2.1)

助走に問題はなかったが、風の影響で最後ストライドが伸びてしまい踏切動作が思い通りにできなかった。

総括して、助走が合わず思い通りの跳躍ができなかった。また、足が合わないことで、助走にばかり集中して跳躍を意識することができなかった。しかし、体自体はよく動いていたので、いつでも完璧な助走ができるように助走練習を意識して行いたい。また、大会慣れしていないように感じたので、いろんな大会に出場していきたいと思う。

10位西川亜連(3)6m35(+1.0)

1本目 F

気候も体調も良好。直前練習では10cmほどのファールだったので20cm助走を伸ばしてスタートした。練習よりもスピードが乗り、ラストの6歩でストライドが大きく伸びたため、3cm程ファール。またストライドの伸びにより踏み切りは間延び気味で入り、若干潰れた跳躍となった。6m60~70付近に着地。

2本目 F

1本目から助走を25cm伸ばしスタート。中間マークから踏み切り6歩前までの走りが1本目より良く、後半は少し詰まる助走となった。踏み切り1歩前をしっかりと刻むことができキレイに浮いた跳躍となったが、5cm程ファール。6m80付近に着地。

3本目 6m35(+1.0)

2本目からさらに30cm助走を伸ばし記録を残しにいった。助走はラスト6歩目までは2本目同様だったが、ラスト6歩で踏み切り板まで遠く感じて上手く刻むことができなかった。踏み切りでファールをしないことを意識して踏み切り板直前のゴムを踏みにいった。踵で突き刺すような踏み切りになり、空中で上手く姿勢を保つことができず、右足が先に落ちてしまった。大きくPBを更新できる力はあると感じたので次回の大会で記録を更新したい。

諸田直樹(4)NM

三年ぶりに全助走での跳躍、付け焼き刃の全助走ではだめだと実感した試合となってしまった。足の痛みもなく調子はこれまでで一番良かったが、それ故に足が全く合わなかった。どの跳躍も数センチファールの実測七メートル越えで、優勝も狙えた試合だったがためになおさら悔しい結果となった。一本目から60センチ以上助走距離を伸ばしたにも関わらずファールしていることから、本番と練習でスピードやピッチが大きく変わっていることが分かったため、練習からピッチを上げた助走練習を意識したい。

女子走幅跳 決勝

2位伊藤未空(2)5m22(+1.4)

1本目 F

直前練習で走っていたため少し抑え目に助走をしたが10cm程ファールだった。踏切から着地にかけては上手くまとまった印象があった。

2本目 5m08cm

1本目がFだったため安全策で助走を緩めた。その結果ゆったりとした跳躍になったが、自己ベストに近い記録を出すことができ、2位に浮上。

3本目 5m22cm

自己ベストを更新した跳躍。助走が非常に乗って踏切も軸の真下で捉えることができたが、空中でバランスを崩してしまった。

4本目 5m03cm

助走は走っていたものの、踏切で間延びをして潰れた跳躍。前に倒れ込むような着地になってしまった。

5本目 F

3本目と同様、助走・踏切共に上手くいったが、空中でバランスを崩してしまった。身体の浮き具合は、1番良かった。

6本目 4m99

疲れで助走が乗らなかった。踏切板に乗らず潰れてしまい、助走スピードだけで跳んだ跳躍だった。

自己ベストを更新できて得点に貢献できたのは良かったが、個人的には惜しい跳躍が多かった。課題である着地の左右差を克服すべく努力を積んでいきたい。

7位村尾愛乃(1)4m55(+1.2)

1本目は踏切でつぶれて跳べなかったものの、その後修正して2本目でUBの4m53を出し、ベスト8に残る。4本目で記録を伸ばし4m55を出すも、その後は伸び悩み、順位を上げることはできいなまま試技を終えた。全体を通して助走距離は安定していたものの、踏切の技術不足が目立った。

男子三段跳決勝

6位大木島壮(3)14m04(+0.9)

1本目 14m03(-0.1)

雷雨による中断により、良い意味で緊張がほぐれリラックスして跳躍に臨めた。踏切、ホップ、ステップに関してはほぼ完璧に決めることができたがジャンプで潰れたのが悔やまれるがPB更新で自身初の14m台。

2本目～5本目(13m34(-1.0)–13m01(-0.7)–13m16(-0.8)–13m40(+0.1))

1本目で決勝ラインの記録を出したことでより思い切り跳ぶことを意識したが、空回りして思うような跳躍をできなかった。原因としては、助走スピードが安定しなかった点とホップで距離、高さを生み出せなかった点が挙げられる。

6本目 14m04(+0.9)

この時点で6位であり、1つでも順位を上げ複数得点を取ることを狙い臨んだ。助走スピードを上げホップで浮くことを強く意識した。踏切で板を踏めず記録を思うように伸ばせなかったことは反省点であるが、ジャンプまで上手くまとめることができた。1本目から1cmPB更新で競技終了。

課題としては助走スピードが挙げられ、現在の走力に対して助走がかなり遅いことから助走スピードの向上が求められる。宮城野も活用してより速い助走スピードでの跳躍を体得したいと思う。

8位大谷航平(2)13m64(-1.1)

1本目 13m38cm(-1.6)

一時中断により身体が固まり、助走から動きのキレがなかった。

2本目 13m64cm(-1.1)

助走の流れを修正し、上手くホップに入れた。記録も悪くはなかったが、この跳躍で以前からあった右足裏の痛みが激しくなった。

3本目 13m42cm(-1.2)

スピードを上げたが、ホップで潰れた。

4本目 13m37cm(+0.4)

ベスト8に残り気合を入れ直して臨んだが、

スピードに耐えれずホップが潰れた。

5本目 F

足裏の痛みが激しく、ステップで力が入らなかった。

6本目 F

気合いで跳ぼうと手拍子を求めた。助走からホップまではこの日で一番良かったが、ファール。ステップも潰れており、実測でもそこまで跳べていなかった。

今大会では、右足裏を3週間前に痛めた影響もあり、全体的に満足のいく動きができずに終わってしまった。今後は怪我の治療を優先しつつ、今大会を通して明らかとなった課題の解決を行なっていきたい。

9位大坂天心(4)13m57(-1.5)

1本目 13m57cm(-1.5)

置きにいった跳躍で記録を残した。PBから見ても妥当な記録が残った。1本目終了時点でトップ8圏内。

2本目 13m57cm(+0.0)

1本目より無理に伸ばそうとせずリラックスした跳躍だった。ホップステップは通常通りで、課題のジャンプが伸び切らず同記録。2本目終了時点で8位。

3本目 13m26cm(-0.5)

トップ8に残るには安心できない記録であったため、攻めた跳躍になった。ステップまではかなり距離が出たが、ステップを着いた衝撃で足首に違和感が生じた。バランスを崩しジャンプで潰れたため記録は出なかった。1人に記録を抜かれ、9位で競技終了。

女子砲丸投決勝

1位畠山千果(3)10m45

1投目は、グライドが完了したあとに溜めを作りきれず体が開くのが早くなってしまい距離がのびなかった。2・3投目は、横方向の動きが強くなってしまった。4～6投目は、腰が引けた投げになっており、突き出しの距離が短く記録があまりのびなかった。全体的に、グライドの重心移動やスピード、右足の回転、背筋の使

い方など課題がたくさん見つかったので今後に活かしたい。

3位 芦立美春(2)8m31

一投目は立ち投げで目線やタイミングを意識しながら投げ、二投目はサイドステップを入れて 8m18 で PB、三投目はスピードやタイミングがとても良かったがファール。四投目は三投目より感覚は良くないが 8m31 で PB。五、六投目は力を上手く入れられず記録が出なかった。

男子やり投決勝

3位 根本大輝(2)53m89

公式練習で腰を痛め全体的に腰を庇った試技となった。1、2 投目は投擲角度をうまく調整できず伸び悩む。3 投目はうまく修正し 53m89cm を記録。4 投目はファール。5 投目は男子 110mH 決勝のため無効。6 投目も 3 投目を上回ることができず 3 位で競技終了。

8位 能澤圭輔(1)45m34

1 投目 日々の投擲練習でも、本番の練習投擲でもそうでしたが、槍が左方向に流れる癖がありましたので、右方向に投げようとの意識のもと、挑みましたが、その甲斐むなしく槍は左にずれてファールとなりました。

2 投目 1 投目に澤田先輩が大幅な自己ベストを更新されたのを受け、気合い十分だったのですが、日々の投擲練習ではラインを気にせずに投げていたために、1投目からファールだったので、ファールを恐れてかなり助走スピードを抑えて投げました。すると案の定手投げになってしまい、全く飛距離が出ませんでした。

3 投目 根本先輩や澤田先輩が素晴らしい記録を出されており、私だけが低次元な記録でしたのでどうにかして飛距離を伸ばしたい、今度は助走のリズム等の技術的なことは頭の隅から追いやって気持ちと筋肉の連動を感じながら投げました。記録としては自分の中ではまずまずの記録でしたが、技術的な面をおろそかにした結果、全く助走のスピードを使え

ておらず、全体としてはかなり不服でした。

4~6 投目 久方ぶりの試合ということも相まって、アップ時に少し投げすぎた結果。4~6 投目は肩に疲れを感じ、どんなに助走等の連続性を意識しても、投げるたびに頭と体が乖離していくのが感じられました。いい例として、特段仰角が大きい訳ではないにも関わらず、槍が上方向を向いてしまい、43mほどに終わってしまいました。練習期間の短さゆえか大変ふがない結果に終わってしまいましたが、まだ学部 1 年ということで時間はあるので焦らず、しかいながらそれに慢心せずに邁進していきたいと思います。

9位 澤田翔太(2)44m02

2回目の競技出場だったので、1 投目は何も考えずにのびのびやろうと思った。今でもなぜこれで PB が出たのかわからないため、動画を見て研究したい。2,3 投目はこれの影響で考えながら投げてしまったので、どちらもファールだった。場数を多く踏まないといけない。

女子やり投決勝

3位 芦立美春(2)29m96

記録をあまり考えずにリラックスして投げた一投目が 29m96 で PB。その後の投擲では助走スピードを変化させたりいろいろ試したが、力んでしまったりタイミングがずれて助走スピードを使うことが出来ず記録が伸びなかった。

4位 畠山千果(3)27m33

1 投目は、アップで投擲練習ができず、公式練習も 2 投のみだったため立ち投げで投げた。26m の記録は悪くなく、感覚もよかった。2・3 投目は、クロスステップで投げたが勢いをやりに伝えられず、記録を伸ばすことはできなかった。4~6 投目は、助走をつけて投げたが、足の運びが未習熟でスピードを活かした投げができなかった。肘が痛む投げ方をしてしまっている、正しい投げの知識をつけながら練習を積んでいきたい。

第72回全国七大学対校陸上競技大会兼第32回全国七大学対校女子陸上競技大会 たけびしスタジアム京都および京都市西京極総合運動公園補助陸上競技場 2021

日付	種目名	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
7月31日	男子100m 風-0.3	山本 悠生 (3) 10.89 名古屋大	新山 大翔 (1) 10.90 東北大	鳥居 青矢 (3) 10.93 名古屋大	山田 慎之助 (1) 11.03 京都大	上村 起之 (4) 11.09 東北大	執柄 翔輝 (4) 11.35 九州大	大野 和輝 (4) 11.36 北海道大	笹山 一星 (2) 16.32 東北大
7月31日	男子200m 風+0.7	山本 悠生 (3) 21.85 名古屋大	鳥居 青矢 (3) 21.96 名古屋大	西尾 陸大 (1) 22.33 東北大	田中 大智 (4) 22.33 京都大	上村 起之 (4) 22.34 東北大	亀田 智大 (4) 22.47 北海道大	平井 嘉人 (3) 22.81 東北大	針生 祥平 (3) 23.18 名古屋大
7月31日	男子400m	齊藤 宥哉 (2) 49.35 東北大	小島 七洋希 (3) 49.43 名古屋大	室 和希 (3) 49.50 京都大	片桐 大智 (4) 49.82 東北大	佐藤 千仁 (3) 49.94 東北大	藤田 雄大 (4) 50.12 京都大	前田 朝陽 (4) 50.37 京都大	蔵 啓太 (4) 51.14 名古屋大
7月31日	男子800m	中尾 友哉 (4) 1:54.95 京都大	安井 遥祐 (3) 1:56.67 名古屋大	三田 智己 (3) 1:56.68 九州大	川井 景太 (4) 1:57.04 京都大	大塚 光陽 (1) 1:57.46 東北大	遠藤 乃碧 (3) 1:57.61 名古屋大	千葉 琢巳 (3) 1:57.68 東北大	杉原 陸斗 (2) 1:58.28 名古屋大
7月31日	男子1500m	足立 舜 (4) 4:03.82 京都大	宮瀬 陸 (3) 4:04.85 北海道大	林 亮佑 (3) 4:04.87 北海道大	古田 龍嗣 (3) 4:05.43 九州大	重田 直賢 (3) 4:07.13 名古屋大	今岡 佑斗 (3) 4:09.08 名古屋大	亀野 流 (4) 4:09.88 九州大	吉原 諒 (1) 4:12.10 名古屋大
7月31日	男子5000m	清水 厚佑 (4) 14:55.14 京都大	足立 舜 (4) 14:59.71 京都大	重田 直賢 (3) 15:08.75 名古屋大	林 亮佑 (3) 15:11.08 北海道大	河崎 憲祐 (2) 15:23.28 名古屋大	千々松 皇陽 (3) 15:44.04 九州大	牧野 雅紘 (4) 15:53.97 東北大	白神 優作 (4) 15:55.59 九州大
7月31日	男子110mH 風-0.1	釜谷 拓磨 (3) 14.59 北海道大	齋藤 晃汰 (2) 14.77 東北大	宮原 翔太 (4) 14.82 名古屋大	齋藤 岳 (2) 14.93 名古屋大	根本 大輝 (2) 15.39 東北大	岡田 幹太 (2) 15.69 東北大	坪井 成 (2) 15.75 京都大	永田 智季 (4) 16.01 名古屋大
7月31日	男子400mH	田中 壘 (3) 52.10 九州大	酒井 良佑 (4) 54.01 京都大	二ノ神 遼 (4) 54.27 東北大	蔵 浩暉 (2) 55.91 名古屋大	岡田 幹太 (2) 55.97 東北大	岩崎 光起 (2) 57.37 京都大	松本 颯平 (2) 58.67 名古屋大	金盛 圭悟 (1) 59.44 京都大
7月31日	男子3000mSC	森川 陽之 (4) 9:20.88 名古屋大	吉村 柗太 (4) 9:29.69 京都大	足立 舜 (4) 9:33.97 東北大	野中 大地 (4) 9:38.46 九州大	嶋田 舜紀 (2) 9:40.48 北海道大	小川 海里 (1) 9:41.27 名古屋大	今村 友彰 (4) 9:53.33 九州大	市原 詩音 (2) 9:55.60 京都大
7月31日	男子5000mW	大島 涼寛 (2) 22:29.33 名古屋大	平岡 拓 (4) 22:32.46 京都大	池田 尚平 (3) 23:31.59 京都大	辻本 隆文 (3) 23:52.36 東北大	伊里 友希 (2) 24:11.41 名古屋大	富田 尚希 (3) 24:40.66 名古屋大	尾原 翔 (2) 25:19.91 京都大	新藤 倫太郎 (2) 25:50.16 九州大
7月31日	男子4×100mR	東北大 41.26 上村 起之 (4) 新山 大翔 (1) 西尾 陸大 (1) 齋藤 晃汰 (2)	名古屋大 41.33 山本 悠生 (3) 高間 聖大 (2) 宮原 翔太 (4) 鳥居 青矢 (3)	京都大学 41.72 山田 慎之助 (1) 田中 大智 (4) 村田 憧哉 (4) 仲村 快太 (4)	九州大 42.81 田中 壘 (3) 小川 翔大 (1) 黒澤 薫史 (2) 執柄 翔輝 (4)	北海道大 43.08 久保 舜一郎 (2) 大野 和輝 (4) 神田 修平 (2) 白井 綜 (4)			
7月31日	男子4×400mR	京都大 3:19.19 前田 朝陽 (4) 藤田 雄大 (4) 中尾 友哉 (4) 室 和希 (3)	東北大 3:21.11 齊藤 宥哉 (2) 二ノ神 遼 (4) 吉田 陸人 (3) 片桐 大智 (4)	名古屋大 3:21.39 小島 七洋希 (3) 蔵 啓太 (4) 蔵 浩暉 (2) 大久保 信哉 (2)	九州大 3:25.29 田中 壘 (3) 執柄 翔輝 (4) 大鷲 優紀 (3) 梁 梓桐 (1)	北海道大 3:26.25 神田 修平 (2) 白井 綜 (4) 杉原 大夢 (4) 林 亮佑 (3)			
	トラック対校得点	名古屋大 76点	京都大 71点	東北大 54点	北海道大 25点	九州大 24点			
7月31日	男子走高跳	山中 駿 (1) 2m09 京都大	大平 海史 (2) 2m06 名古屋大	嶋崎 雄飛 (2) 1m95 東北大	鴛原 泰輝 (2) 1m90 京都大	平山 朝陽 (1) 1m85 東北大	根本 大輝 (2) 1m85 東北大	井上 裕介 (3) 1m80 京都大	
7月31日	男子棒高跳	藤 虎康 (2) 4m20 九州大	圓山 遥斗 (1) 4m20 北海道大	佐々木 玲 (4) 4m10 東北大	佐藤 陸斗 (2) 3m80 東北大	黒石 公祐 (1) 3m60 東北大	今西 直 (3) 3m40 京都大	佐々木 悠介 (4) 3m00 北海道大	深井 颯一郎 (1) 2m80 京都大
7月31日	男子走幅跳	村田 憧哉 (4) 7m06 京都大	齋藤 啓 (2) 7m04 京都大	仲村 快太 (4) 6m95 京都大	太田 匠哉 (3) 6m89 九州大	市川 忠樹 (2) 6m79 名古屋大	渡邊 啓暉 (4) 6m71 北海道大	細島 慎友 (3) 6m63 東北大	野村 左京 (4) 6m45 北海道大
7月31日	男子三段跳	梶 慎介 (2) 14m89 京都大	齋藤 啓 (2) 14m40 京都大	岩井 響平 (4) 14m35 名古屋大	諏訪 玄樹 (4) 14m24 名古屋大	浅田 朋来 (3) 14m21 名古屋大	大木島 壮 (3) 14m04 東北大	安本 崇隼 (1) 13m83 北海道大	大谷 航平 (2) 13m64 東北大
7月31日	男子砲丸投	中村 龍彦 (3) 13m62 名古屋大	眞鍋 聡志 (3) 13m47 京都大	松本 大輝 (4) 11m99 九州大	糀 翔太 (2) 10m66 名古屋大	鄭 晟皓 (4) 9m96 京都大	青木 秀磨 (1) 6m97 北海道大	姉川 将大 (2) 6m76 九州大	福田 理仁 (4) 5m98 九州大
7月31日	男子円盤投	安岡 大生 (2) 36m70 名古屋大	中村 龍彦 (3) 36m62 名古屋大	糀 翔太 (2) 35m99 名古屋大	眞鍋 聡志 (3) 35m19 京都大	松本 大輝 (4) 34m50 九州大	安藤 正貴 (1) 28m73 京都大	鄭 晟皓 (4) 26m67 京都大	圓山 遥斗 (1) 26m66 北海道大
7月31日	男子ハンマー投	中村 龍彦 (3) 46m88 名古屋大	爲本 龍汰 (4) 41m39 北海道大	柳生 憲伸 (3) 31m23 名古屋大	眞鍋 聡志 (3) 27m14 京都大	中井 優介 (4) 25m72 名古屋大	中井 優介 (4) 19m29 北海道大	安藤 正貴 (1) 13m31 京都大	
7月31日	男子やり投	松岡 幹也 (3) 60m08 名古屋大	山野 陽集 (4) 54m40 京都大	根本 大輝 (2) 53m89 東北大	青木 秀磨 (1) 52m01 北海道大	河野 颯平 (3) 51m51 九州大	小坂井 克也 (3) 45m98 名古屋大	今西 直 (3) 45m49 京都大	能澤 圭輔 (1) 45m34 東北大
	フィールド対校得点	京都大 59点	名古屋大 53点	東北大 21点	九州大 19点	北海道大 16点			
	対校総合得点	京都大 130点	名古屋大 129点	東北大 75点	九州大 43点	北海道大 41点			

第72回全国七大学対校陸上競技大会兼第32回全国七大学対校女子陸上競技大会 たけびしスタジアム京都および京都市西京極総合運動公園補助陸上競技場 2021

日付	種目名	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
7月31日	女子100m 風-2.2	祖父江 真子 (2) 12.39 名古屋大	小林 はづき (3) 12.92 名古屋大	米山 寧音 (3) 12.96 九州大	入江 明歩 (2) 13.09 北海道大	三好 紗椰 (2) 13.16 京都大	山崎 萌々子 (3) 13.30 東北大	須藤 桃由 (1) 13.39 東北大	松林 あかね (4) 13.67 北海道大
7月31日	女子400m	菅田 理乃 (1) 57.94 東北大	入江 明歩 (2) 59.75 北海道大	山崎 萌々子 (3) 1:00.88 東北大	丹羽 優菜 (2) 1:03.19 名古屋大	西川 真悠 (4) 1:03.53 京都大	藤井 美月 (1) 1:05.13 九州大		
7月31日	女子800m	小川 明音 (4) 2:14.48 東北大	吉良 瑞希 (2) 2:18.50 九州大	西川 真悠 (4) 2:22.88 京都大	鷺谷 苑子 (3) 2:31.91 北海道大	日野谷 レナ (2) 2:39.97 京都大	木村 瑞葉 (1) 2:50.31 東北大	山田 知可子 (2) 2:55.20 北海道大	
7月31日	女子3000m	藤本 涼 (4) 10:40.32 京都大	中村 沙和子 (4) 11:02.65 北海道大	溝江 悦子 (3) 11:05.22 九州大	藤本 のどか (3) 11:20.44 京都大	氏家 颯花 (1) 11:24.09 北海道大	阿部 袖佳 (3) 11:38.41 東北大	末永 紗希 (3) 11:47.07 九州大	小山 麻妃 (2) 12:09.33 東北大
7月31日	女子100mH 風+1.1	坂口 なつこ (1) 15.10 名古屋大	山崎 萌々子 (3) 15.35 東北大	百合草 美優 (2) 15.60 名古屋大	新保 歩 (1) 16.48 京都大	高橋 明音 (1) 17.29 北海道大			
7月31日	女子4×100mR	名古屋大 48.46 小林 はづき (3) NGR 祖父江 真子 (2) 坂口 なつこ (1) 中村 友香 (3)	東北大 50.83 須藤 桃由 (1) 伊藤 未空 (2) 原田 萌々子 (1) 山崎 萌々子 (3)	京都大 51.43 新保 歩 (1) 三好 紗椰 (2) 小西 菜月 (3) 森尾 美月 (2)	九州大 52.36 渡邊 結奈 (1) 米山 寧音 (3) 藤井 美月 (1) 石井 晶子 (1)	北海道大 54.25 阿部 四季野 (1) 入江 明歩 (2) 松林 あかね (4) 鷺谷 苑子 (3)			
	トラック対抗得点	名古屋大 14点	東北大 14点	京都大 9点	北海道大 8点	九州大 8点			
7月31日	女子走高跳	中村 友香 (3) 1m63 名古屋大	小西 菜月 (3) 1m60 京都大	百合草 美優 (2) 1m50 名古屋大	原田 萌々子 (1) 1m45 東北大 新保 歩 (1) 京都大	菅田 理乃 (1) 1m45 東北大			
7月31日	女子走幅跳	小林 はづき (3) 5m49 名古屋大 (-0.6)	伊藤 未空 (2) 5m22 東北大 (+1.4)	小西 菜月 (3) 5m07 京都大 (+2.0)	石井 晶子 (1) 5m05 九州大 (+0.2)	江尻 智香 (2) 5m02 名古屋大 (+1.2)	新保 歩 (1) 4m58 京都大 (+0.8)	村尾 愛乃 (1) 4m55 東北大 (+1.2)	阿部 四季野 (1) 4m43 北海道大 (+0.9)
7月31日	女子砲丸投	畠山 千果 (3) 10m45 東北大	小西 菜月 (3) 9m27 京都大	芦立 美春 (2) 8m31 東北大	清水 優香 (4) 8m15 名古屋大	鎌田 友美 (4) 7m05 名古屋大			
7月31日	女子やり投	篠田 佳奈 (1) 40m32 京都大	小西 菜月 (3) 33m82 京都大	芦立 美春 (2) 29m96 東北大	畠山 千果 (3) 27m33 東北大	清水 優香 (4) 19m48 名古屋大	小池 里歩 (3) 16m74 名古屋大		
	フィールド対抗得点	京都大 11.5点	名古屋大 11点	東北大 9.5点	九州大 1点				
	対抗総合得点	名古屋大 25点	東北大 23.5点	京都大 20.5点	九州大 9点	北海道大 8点			

◎自己ベスト更新者一覧(7/5~9/4) *太線部は部記録

*男子

- ・男子 100m
川手拓朗(1)11.22(+1.3) (仙台大記録会)
秋山 航(3)11.11(+0.7) (花巻トラック)
赤星栄治(M1)12.20(-1.2) (花巻トラック)
- ・男子 200m
上村赳之(4)21.91(0.0) (七大戦)
- ・男子 800m
臼井駿斗(M1)2:04.66(仙台大記録会)
- ・男子 110mH
齋藤晃汰(2)14.77(-0.1) (七大戦)
岡田幹太(2)15.42(+1.3) (七大戦)
根本大輝(2)15.32(+1.7) (七大戦)
- ・男子 400mH
岡田幹太(2)55.97 (七大戦)
加地拓弥(M1)51.98(仙台大記録会)
- ・男子走高跳
根本大輝(2)1m85(七大戦)
- ・男子三段跳
大木島壮(3)14m04(+0.9) (七大戦)
- ・男子やり投げ
澤田翔太(2)44m02(七大戦)

*女子

- ・女子 100m
佐貫有彩(M2)12.02(+0.1)(仙台大記録会)
- ・女子 400m
山崎萌々子(3)1:00.88(七大戦)
- ・女子 800m
小川明音(4)2:14.48(七大戦)
- ・女子 100mH
山崎萌々子(3)15.35(+1.1) (七大戦)
- ・女子走幅跳
伊藤未空(2)5m22(+1.4) (七大戦)
- ・女子砲丸投げ
芦立美春(2)8m31(七大戦)

◎OB・OG 戦のお知らせ

今年、OBOG 戦を開催したく存じます。多くの OBOG の皆様のご参加をお待ちしております。

日付:10月16日(土)

場所:評定河原グラウンド

種目(予定):100m 400m 1500m 走高跳 走幅跳 砲丸投 やり投 リレー

申込方法、申込期間、連絡先は別途案内申し上げます。

◎今後の予定

- ・9月17～19日 第90回日本学生陸上競技対校選手権大会(埼玉・熊谷スポーツ文化公園)
- ・9月27日 秩父宮賜杯第53回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区代表選考会 兼
第39回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区選考会
(岩手・北上総合運動公園陸上競技場)
- ・10月10日 第33回出雲全日本大学選抜駅伝競走(島根県出雲市)
- ・10月16日 OB・OG 対現役部員対抗陸上競技大会(東北大学評定河原グラウンド)
- ・10月31日 第39回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(仙台市)
- ・11月7日 秩父宮賜杯第53回全日本大学駅伝対校選手権大会
(愛知県名古屋市～三重県伊勢市)

◎編集後記

今号から OB・OG 通信担当となりました、安藤彩澄と申します。不慣れなところもあるとは思いますが、OB・OG の皆様に東北大学陸上競技部の活躍を余すことなく伝えていきたいと思っております。例年通りの活動ができない中、試行錯誤しながら毎日の活動を行っています。主将・佐藤千仁、女子主将・大宮日菜子のもと、新たな体制で戦っていく東北大選手たちの活躍にご期待・ご声援のほどよろしく願いいたします。

安藤彩澄

東北大学陸上競技部三秀会
〒980-0815 仙台市青葉区花壇 2-1
東北大学評定河原グラウンド内
hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp